

平成 30 年度第 2 回地殻活動研究委員会活動記録

日 時：平成 31 年 1 月 24 日(木)～1 月 25 日(金)

場 所：瑞浪国際地科学交流館 1F 会議室

出席者：石井 紘、板場智史、大塚成昭、加納靖之、川崎一朗、木股文昭、國友孝洋、
小泉尚嗣、佐々木嘉三、佐野 修、鈴木貞臣、田阪茂樹、田部井隆雄、
津村建四朗、名和一成、平原和朗、古本宗充、光井能麻、宮岡 一樹、向井厚志、
山川 稔 (21 名)

オブザーバー：青木治三、金沢敏彦、関根正夫、野口科子 (4 名)

事務局：浅井康広、田中俊行、村上 理 (3 名)

議 事：1 月 24 日(木) 13:30～17:15

・研究活動の紹介(1)

- | | |
|------|--|
| 平原委員 | EnKF による LSSE 発生域の摩擦特性および
すべり発展推定に関する数値実験 |
| 青木治三 | 南海トラフ沿い大地震の発生間隔乱れの原因 (概要) |
| 川崎一朗 | 胆振東部地震の首都圏直下型地震への教訓 |
| 加納委員 | 距離減衰式を活用した歴史地震の評価 |
| 小泉委員 | 安曇川の水質と花折断層・琵琶湖西岸断層との関係について |
| 田阪茂樹 | 割石温泉の湯量観測と解析 |
| 向井委員 | 六甲高雄観測室における断層破碎帯近傍の地下水変動観測 (仮) |
| 光井能麻 | 長期的 SSE 発生源における非断層すべり成分の検出および、
これに伴う歪速度変化の検討 |
| 笠原 稔 | 東濃地震科学研究所の歪計応力計十字アレイで観測される
地震動記録-その 3 - 次元不変量の観測点間比較 - |
| 佐野 修 | 異なる剛性を持つセンサーによる比較観測結果 |
| 石井 紘 | 連続観測用ボアホール応力計に関する考察
－応力計は応力と歪の両方を観測できる・応力は歪と異なり岩盤の弾性
定数と無関係にわかる・なぜ観測される二次元不変量と鉛直成分は相似
波形になるか・その他－ |

議 事 (つづき) 1 月 25 日(金) 9:30～12:00

・研究活動の紹介(2)

- | | |
|-------|--|
| 鈴木貞臣 | 東海地域スラブ内地震の線状配列について |
| 野口科子 | 域観測網 AS-net により観測された
青森県-北海道の浅部を含む低周波地震活動 |
| 津村建四朗 | 東北地方太平洋沖地震で宮城県沖に誘発された繰り返し地震活動 |
| 村上 理 | Monotonic seismic wave from Mayotte Island |

名和委員 iGrav-017 超伝導重力計の移設について
 — 苫小牧から南新川を経て弟子屈へ—

古本宗充 降雨に伴う重力変化について
 ・ 討論

各委員の研究報告の後、研究成果に対する質疑応答を行った。